

4年目の挑戦

～成功事例から見えてきた課題～



特別養護老人ホーム なの国



4年目になって、なの国にもやっとリフトがきた！

ちょうどこのタイミングで
重度化予防(ポジショニング)の研修に
職員が参加した。

この機会に



床走行リフトの使用を定着させるために、単に移乗する道具と考えるのではなく、入居者様が安楽に過ごせるケアに必要な道具の一つとして活用することを習慣化できないだろうか考えた。

なの国で使用している福祉用具紹介

スラディングボード

イーザーグライド 7枚
マスターグライド 1枚
スライディ 1枚
モーリフボード 1枚



床走行リフト

なの国リフト 第一号



フレックスボード

4枚(必要な方に使用)



スライディングシート

10枚(各フロア2枚目安に配布)



スライディンググローブ

看護・介護スタッフ一人1組配布



安楽に過ごせる **きちんとケア** 3つの重要項目



きちんと移乗する
(ノーリフティング)

座位保持と臥床を繋ぐ

きちんと座る
(シーティング)

きちんと寝る
(ポジショニング)

リフトの役割は
重要になってくる！

【CASE1:T様 座位】

【ADL】

基本・ADL動作:全介助

介入前



介入後



リフト使用後

【身体状況】

筋緊張:頭部～上肢の筋緊張高い
関節可動域:肩関節屈曲・外転、
肘関節伸展に制限(+)
座位姿勢:右側への傾き+
前方への転落リスク+

【身体状況】

筋緊張:頭部～上肢の筋緊張緩和
関節可動域:手を顔近くまで持っていけるまで
肩関節・肘関節の可動域拡大
座位姿勢:右側への傾きはほぼ無し
安定した座位で前方への
転落リスク減少

【CASE1:T様 臥位】

介入後



介入前



リフト使用後



・頭部ギャッジアップ+厚めの枕を
使用しても、頭が枕につかない
・上肢は肩関節外転せず、
身体の上に置くようなポジション

・頭部ギャッジアップせずに、枕に
すっと頭がつくようになった
・上肢の筋緊張が緩み、脇を
開いて腕を伸ばせるようになった

CASE1:T様のまとめ

リフト評価期間:6月～9月

【取り組んだケア】

- ・離床時に床走行リフトを使用
(1日4回)
- ・臥床時のクッションを用いた
ポジショニングの実施
- ・2時間おきの体位交換の姿勢を統一
(上肢屈曲傾向改善のため、
30度側臥位)
- ・ポジショニング時にクッションに身体を
馴染ませるためのHOGUSHIの実施
- ・車椅子座位時に正しい姿勢で座れる
ように整える(シーティング)

【結果】

- ・筋緊張が緩んだことで頭部・上肢が
リラックスし、ヘッドギャッジアップせず
とも枕に頭がつくようになった
- ・車椅子座位姿勢が安定した
- ・猫背が改善し、上肢を少し使用できる
ようになる(机のコップに手を伸ばす・
おしぼりで鼻をふく動作がみられる)
- ・下肢を少し動かすことができる
(臥床時に腰を上げる協力動作が
増える)



【CASE2:E様 座位】

【ADL】

基本・ADL動作:全介助

介入前



リフト評価期間:6月～9月

【取り組んだケア】

- ・離床時に床走行リフトを使用(1日2回)
- ・臥床時のクッションを用いた
ポジショニングの実施
- ・2時間おきの体位交換の姿勢を統一
(上肢伸展傾向改善のため、90度側臥位)
- ・ポジショニング時にクッションに身体を馴染
ませるHOGUSHIの実施
- ・車椅子座位時に正しい姿勢で座れるよ
うに整える(シーティング)

ユニット内でのリフト使用率

6月は**15%**だったものが、9月には**100%**へ!!

(ユニットスタッフ78名中2名から開始→全員が使用できるように)

【CASE2:E様 座位】

介入後



リフトを使用する回数が少なかったため、関節可動域や筋緊張に大きな変化は見られなかったが



- ・リクライニング車いすの座位姿勢が安定した
- ・入浴方法:特浴→リフト浴へ変更できた
- ・嚥下状態の改善
(食塊を口腔内に溜め込みことが減少)
- ・ゴロ音やムセ込みが減少した
- ・吸引回数が減少した

4月:5回

5月:1回、以降0回

- ・排便状況の改善(平均-3.5日→平均-2日)

ケアの時間短縮になり、
体調の維持に繋がった

【取り組んだ2事例を通して】



- ・入居者様の日々の良い変化に気づき、
職員同士での会話が増えた
- ・成功事例が出来たことにより、
ケアに対するスタッフの意識が変わった!

- ・今回は1フロア(2ユニット)内だけで取り組んだ。
これを全フロア(8ユニット)に普及させることの
難しさを感じた



- ・継続する事の重要性を再確認した

【継続して行えていること】

*施設全体

- ・月1回のノーリフティングケア委員会の実施
- ・車椅子点検チェックシートの活用
- ・月5日間の技術研修

*リフト導入ユニット内

- ・床走行リフトの継続使用
- ・定期的なポジショニング講座の実施



*ノーリフティングケア委員会

【年数を重ねて疎かになったこと】

- ・リスク抽出手段である「職員の声」の
提出率が減少
- ・ユニットのラウンドチェック



【4年目でやっと芽生えた自信と自覚】

- ・リフトを導入した事で自信をもってノーリフティングケア
に携わるスタッフが増えてきた
- ・使用しているノーリフティングケアの用具に関心を持ち、
グローブポーチやスライディングシートを改良する
スタッフもでてきた
- ・成功事例やわかりやすい研修動画を
視聴することにより、ノーリフティングケア
とケアに関する知識の習得に意欲が
でてきた
- ・できていない部分は改善し、外部に
ノーリフティングケアを
アピールできる施設を目指していく

改良したポーチたち

